

第2学年 道徳学習指導案

日 時 平成16年 1月26日(月) 5校時

指導学級 軽米町立晴山中学校 2学年

男子12名 女子17名 計29名

指導者 教諭 山本克哉

I 主題名 愛校心 4-(7)

(資料名「真澄の空になびく校旗」、出典「かけがえのないきみだから 中学生の道徳2年」学研)

II 主題について

1 ねらいとする価値について

中学校の指導項目4-(7)は、「学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する」となっている。

学級担任や各教科担任の指導のもとに、授業やいろいろな活動に意欲的に取り組むには、生徒同士、教師や学校の人々とが互いに信頼関係をもち、敬愛の念を深める態度を育てることが大切であると考ええる。

そのために必要なことは、集団の一員であるという所属感を獲得することである。中学生にとっては、生活の大半を過ごす学級や学校が重要な生活の場になっているため、自分という存在を集団のなかに見つけること、所属する集団を大切に思うことは非常に重要である。所属感を感じ、所属意識を高めることが母校を愛し大切にしていこうとする気持ちの育成につながると考える。そして、同じ学校で生活した先輩の思いや願いを感じ、理解していくことで愛校心が芽生え、母校への愛着を一層深めるとともに伝統を継承・発展させてよりよい学校を作っていこうとする態度につながると考える。

本主題のもとに、自分の学校に対する敬愛の念を深め、協力して自校の校風を継承し発展させようとする態度を育てたいと考える。

2 ねらいにかかわる生徒の実態について

本学級の生徒は、主に学区の小学校3校からの卒業生で構成されている。明るく何事にも積極的に取り組もうとする生徒が多いが、2年生になってからの生活状況を見ると、言葉遣いが悪かったり教師や学校の人々への感謝の気持ちが足りないなど、敬愛の情が十分に育っているとは言えない。

学級への願いや思いをはっきりとは主張しないものの、多くの生徒が「こんな学級がいい」という願いを持っている。しかし、既存の仲間関係に強く影響された言動が見られ、自分自身は多少なりとも良い方向に変わりたいという願いを持っていても、周囲の目を気にして行動できなかったり、クラス全体に対して自分の意見や願いを発表する勇気を持ってない生徒が多い。

愛校心に関しては、一部のリーダー生徒は学校をよりよいものにしていこうという願いはあるものの、多くの生徒は自分たちの学校への関心やよりよい学校づくりへの意欲は十分とはいえない状況にある。対外的な応援活動をほとんど体験していないことや、自校の歴史や伝統に触れる機会が少ないことが影響していると考えられる。

そこで自校の歴史や伝統を学び先輩たちの思いや願いを感じることを通して、自校に対する所属意識を高めるとともに、自分が所属する学級・学校をより発展させていこうとする態度を育てていきたいと考える。

Ⅲ 指導の構想

1 授業の概略

導入では自分の学校についてのイメージや考えを発表させ、自校に対する思いや考えを深めていこうという課題を提示する。

展開では資料を用い、主人公ぼくの今までの学校に対する思いや、おばあさんの質問に対して黙ってしまった心理を共感的に理解させながら、学校や校歌に対する思いの変容を捉えさせたい。そして、自校の伝統に着目させて晴山中学校の伝統とは何か、それをどう思うかを考えさせ、意見交流を図りたい。

終末では、補助資料を用いて晴山中学校の歴史や諸先輩の思いや願いを知る場面としたい。

2 資料について

本資料は「かけがえのないきみだから 中学生の道徳2年」の編集委員会が作成した資料である。本資料は、真澄中の生徒である主人公「ぼく」が真澄中の卒業生である「おばあさん」との出会いを通して、自校について考えを深め自校や校歌に対する愛着が深まっていく姿が描かれている。

主人公の立場や心情は生徒自身の生活や経験に近いので、「ぼく」の心情の理解が共感的に行われやすいと考える。また、主人公の心の移り変わりを自分自身と重ねて考えることが、生徒一人一人に自らの学校に対する思いをもう一度考えさせ、深めるきっかけになると考える。

このことから、ねらいとする「自分の学校に対する敬愛の念を深め、協力して自校の校風を継承し発展させようとする態度を育てる」ことにつながる資料であると考えられる。

3 研究との関連

(ア)「内容項目を生徒の実際の姿と結びつけてとらえた授業」(道徳的価値の深化)について

生徒の実態を把握することと発表への準備としてワークシートを準備し、書かせる活動を取り入れる。また、資料を読む際に印象に残った箇所に線を引かせる。

(イ)「生徒の主体的な話し合いによって構成される授業」(自己表現力と道徳的実践力の向上)について

なし

(ウ)「ねらいを明確にし、資料の活用や発問の工夫がなされた授業」(道徳的価値の補充・統合)について

1月は、生徒会役員選挙を経て決定した次期生徒会を担うリーダーが実際の活動を始め、3年生から2年生へ生徒会活動の中心が移行する時期である。新リーダーが意欲に燃えるこの時期に自校の伝統に触れ、愛校心を深めることは今後の活動に良い影響を与えられられる。

よって本主題をこの時期に扱うことが好ましいと考え、資料の選定を行った。

(エ)「体験活動を生かした授業」(道徳的実践力の向上)について

晴山中学校の風景や旧校舎の写真を導入で用いたり、卒業生のメッセージを紹介するなど生徒の思考を実際の生活や体験に関連させるよう、補助資料を工夫する。

IV 本時の展開

1 ねらい

自分の学校に対する敬愛の念を深め、協力して自校の校風を継承し発展させようとする態度を育てる。

2 展開

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点・備考
導入 5分	1 自分の学校をどのように思っているか発表する。	<p>○ あなたは晴山中学校をどのような学校だと思いますか。(晴中のイメージは?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動が盛ん ・小規模 ・校舎が古い ・部活動が盛ん ・落ち着いた ・騒がしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・晴山中学校の現校舎と旧校舎の写真を提示する。(テレビ、PC) ・事前にワークシートに記入させる。
私たちの母校となる晴山中学校について考えを深めよう。			
展開 35分	<p>2 資料を読む。</p> <p>3 主人公の気持ちの変容をとらえる。</p> <p>4 晴山中学校の伝統について考える。</p> <p>5 意見交流を行う。</p>	<p>○ これまで「ぼく」は学校や校歌についてどのように思っていたらうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嫌いじゃないけど、恥ずかしくて歌えない。 <p>○ おばあさんの質問に、なぜ「ぼく」は黙ってしまったのだろうか。また、「ぼく」の迷いや思いとは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷いや思いを言葉に表せなかったから。 ・真澄中のよさが分かっていないから。 ・急に聞かれて、考えたこともなかったから。 ・もっと学校について知りたいが、どうしたらよいか分からない。 <p>○ ひとりになったとき、思わず「校歌」を口ずさんだのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学校を大切にしようと思ったから。 ・なんとなく学校が好きになったから。 ・学校に誇りを持ったから。 <p>◎ 晴山中学校の伝統とは何か。また、それをどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動 ・信頼の箱 ・信頼の鍵 ・続けていきたい ・いいことだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残った箇所や登場人物の心情に共感できる箇所に線を引かせる。 ・主人公の気持ちを押さえる程度にし、ほかの登場人物の心情に触れるなど時間をかけて資料に深く入ることは避ける。 ・ワークシートに記入させ、個々の考えを把握する。
終末 10分	<p>6 自校の伝統や歴史に触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説話 ・卒業生からのメッセージ 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会スローガンのルーツを探りながら、自校の歴史と卒業生の思いを理解する。 ・ビデオレター

3 評価

自校の伝統や歴史について考えることができ、それを引継ぎ発展させていこうとする思いを深められたか。